

参考2  
ことばの説明



## ことばの説明

ことば	ことばの説明
かこう 火口	噴火によってできた凹んだ地形を火口といいます。
かこうげん 火口原	火口の中が噴出物に埋まってなだらかな地形を作るとき火口原といいます。
かさい 火砕サージ	火砕流のまわりに広がる熱く高速の砂嵐のこと。水蒸気爆発でも起こることがあります。
かさいりゅう 火砕流	熱い火山ガスや岩のかけらや砂が混じりあって火口から高速で流れ広がる現象を火砕流といいます。
かざん 火山	噴火によってできる地形を火山といいます。
火山ガス	火山の中からふき出してくるガスのこと。
かざんばい 火山灰	噴火によって火口からふき出された灰のように細かな岩のかけらのこと。
かつかざん 活火山	将来噴火する可能性のある火山のこと。
かるいし 軽石	噴火の際にマグマは急に泡だって、孔だらけのかけらが噴出します。冷えた後に水に浮くほど孔が多いものを軽石といいます。
カルデラ	噴火などによってできた直径が2kmを超える大きなくぼちをカルデラといいます。
くうしん 空振	火口で爆発が起きたり、火山ガスが勢いよくふき出したとき、火口の周りの空気が揺らされて波となってまわりに伝わります。
じーぴーえす GPS	人工衛星からの信号を使って地表の位置や高さを詳しく測る装置のこと。
でいりゅう 泥流	噴出物が水と混ざって流れ下る現象を泥流または火山泥流といいます。噴火の後に噴出物が雨により流される場合、雪が積もった火山で噴火して噴出物が雪を溶かして一緒に流される場合、火口から直接水と噴出物が一緒になって流れ出る場合などがあります。土石流と呼ばれることもあります。

## ことばの説明

ことば	ことばの説明
どせきりゅう 土石流	泥流のなかでも特に岩のかけらが多いとき、土石流と呼ぶことがあります。
ふんえん 噴煙	噴火すると火口から上空に噴出物や火山ガスがふき上げられます。これを噴煙といいます。
ふんか 噴火	マグマが地下から上昇してきて地上にふき出したり流れ出したときや、地下水がマグマに温められて水蒸気できて岩と一緒にふき出す水蒸気爆発が起こったとき、噴火したといいます。
ふんき 噴気	噴火していないときに火口や岩の間から出てくる火山ガスを噴気といいます。
ふんきこう 噴気孔	岩のすきまから噴気が出てくる場所を噴気孔といいます。
ふんしゅつぶつ 噴出物	噴火によって地上に出てきたものを噴出物といいます。
ふんせき 噴石	水蒸気爆発により噴煙にならずに火口のまわりにふき飛ばされた岩を噴石といいます。
ぼうさい 防災マップ	噴出物によって被害が出そうな場所を予測して地図に示したものを防災マップ(ハザードマップ)といいます。 火山噴火ばかりでなく、洪水や、山や崖が崩れる土砂災害、津波の防災マップもあります。
マグマ	地下で岩が溶けてできたものをマグマといいます。
ようがん 溶岩	マグマが火口から地上に流れ出したもの、流れてきて冷えて固まった岩を溶岩といいます。
溶岩ドーム	マグマが火口から地上に出てもほとんど流れずに盛り上がって固まったものを溶岩ドームといいます。
ようがんりゅう 溶岩流	マグマが火口から出て流れているもの、冷えて固まった流れ全体を溶岩流といいます。
ようけつぎょうかいがん 溶結凝灰岩	火山の噴火で降り積もったり、火砕流として流れてきたものが冷えて固まってしまう前にそれ自身の重さを支えきれずにつぶれて変形してしまい、溶岩流のような見かけになってしまった岩を溶結凝灰岩といいます。